

議員定数について

7月1日に全員協議会を開催し、議員定数について意見交換を行った。現状維持が6名、削減が14名でした。これらの意見を参考に協議し、9月定例会で結論を出す予定となっております。

●主な意見

- 広く地域の声を反映させるためには定数を減らすべきではない。
- 経費削減のため報酬を大幅に引き下げ、定数は維持すべき。
- 議会のチェック機能、政策立案機能から定数は維持すべき。
- 財政面から議員自ら襟を正し削減すべき。
- 県内他市との比較では、人口当たりの議員数は高梁市が一番多いので削減すべき。
- 委員会構成は18人でも可能である。
- 地域の声を反映させる事は、定数減でも議員の努力で可能である。

●松山踊りの季節到来●

今回の表紙は、備中たかはし松山踊りポスターコンテストでの最優秀作品です。
制作者は高梁城南高等学校デザイン科2年生の和泉谷まりもさん。偶然にも前号の巻頭を飾って下さいました。
8月14日・15日・16日は備中たかはし松山踊りにぜひお越し下さい。

気になるスポット The spot of Takahashi

山田方谷先生寓居跡

来年5月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に合わせて、教育相会合が倉敷市で開催されます。これは、幕末の備中松山藩で藩政改革を推進し、教育にも力を入れた儒学者・山田方谷の存在が決め手となったようです。高梁市や方谷を世界にPRする絶好の機会であり、高梁市全体で取り組めるよう頑張りたいものです。

写真の建物、かなり荒廃はしていますが、方谷が実際、住んでいた建物で、頼久寺の第2駐車場の傍らにあります。頼久寺住職の生島裕道氏にお聞きしたところ、建てられた年代は定かではないが天保10年の大火の記録には焼失した建物の中には記載はないので、それ以前かその後にできたものだと思います。この建物は「隠寮」と言われている建物で、住職の居住まいでした。1864年方谷60歳の折、板倉勝静公の長州征伐出陣により、留守の兵権を委任された時に、この建物に仮住まいされていたようです。これを機に、この建物の活用を前提とした保存、修復の機運が高まればいいですね。



※寓居…仮に身を寄せている住居

編集後記

「事の外に立ちて、事の内に屈せず」(山田方谷『理財論』)
6月議会においても、「旧ゆ・ら・ら」跡地利用、中央図書館を核にした駅前複合施設の問題をはじめ、人口の減少・高齢化、縮小社会でのまちづくりに対して多くの質問、議論がなされました。

今の行政の仕組みや議会の在り方が時代の急激な変化に対応しきれなくなっているのではないだろうか。今なされている議論や決定した事の外に外があるような考え方が、今を生きる私達に必要ではないでしょうか。今ある考え方や意識の外に、その本質、解決の糸口が隠されているような気がします。

(大森 一生)

編集
議会広報調査特別委員会

委員長 宮田 公人
副委員長 森田 好夫
委員 大森 一夫
委員 石田 仲生
委員 石井 芳誠
委員 石井 美

☆意見はこたないまで

高梁市議会事務局

高梁市松原通20043

☎08669-21-0276